

勝林寺寺報

和合の海へ

元の本願寺宗務総長豊原大潤師から
 同人和△口海
 の揮毫を軸にしたてて贈ってもらいまし
 た。

この言葉、「おなじく和合の海にいら
 ん」ということばは、お釈迦様のいらっ
 しゃった当時から、仏のみ教えをあおぐ
 人たちが合掌のすがたで唱えあつたこと
 ばであろうと思われまふ。
 いわゆる三帰依文さんきえもんの一
 節です。

三帰依とは、「わたしはめざめた人ブ
 ヅダ(仏)と、その仏陀のとかれた真理
 (法)とをよりどころにして、みよりの
 友の和合(僧)を大切に生きたいと念じ
 ます」という仏教徒の称えことばとして
 今日にまで伝えられています。

いまこの「同人和合海」というのは、
 中国の善導大師というかたが、昼夜六時
 にうたう『六時礼讃』(往生礼讃)のな
 かに述べられていることばです。
 「仏教のおみのりのなかで私は、差別
 対立のない、和合の世界に生きたい」

「海」という語が使われているのには
 意味があります。

正信偈のなかにも「海」が何回も使わ
 れています。「弥陀本願の海」「功德の
 大宝海」「本願の大智海」など。
 ちようど海が、どんな川の流れも、そ
 の海に流れ入れば、一つのおじわいの水
 となる。海は、濁った泥水も、けもの
 死骸さえも別け隔てることなく、すべて
 平等に清浄な海水のなかにおさめ取って

しまふ。そういうはたらきが如来のご本
 願なのだといたいておられるのです。
 「五濁悪時の群生もろもろの生きも
 ののただよい生きる海」それがそのま
 ま「弥陀本願の(働いて下さる)海」な
 のです。

だから
 「凡も聖も逆悪の人も法を誘そしる
 ひとさえも、ひとしくこの本願の海に回
 入すれば、あたかも衆水、海にいりて一
 味なるがごとし」と親鸞さまはうたわれ
 るのです。

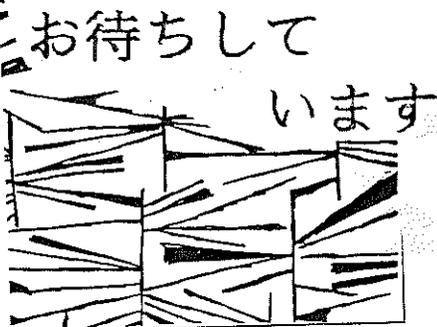
「この世のあるかぎり差別はなくなら
 ない。どうせ凡夫、差別から離れられぬ
 。」という気持ちがあるならば、ど
 うぞ今一度お念仏もうし、こころしてこ
 本願のこえを聞かせてもらおうではあり
 ませんか。

同人和△口海

仏教徒が三千年、念じつづけたことば
 です。

別修報恩講

10月26日(土)



もくせいの香りただよう秋たけなわで
 ございます。
 みなさまいかがお過ごしでございまし
 ようか。お伺い申し上げます。

さて、例年 勝林寺仏壮・仏婦共催にてお
 勤めしております
別修(敬老)報恩講を
 今年も左記のようにお勤め致したく存じ
 ます。

なにかとお忙しいことと存じますが、こ
 ぞってお参りくださいますようお願い申
 上げます。

十月一日

勝林寺仏教育社年會會長
大石 正和
 勝林寺仏教婦人會會長
宮嶋 幸子

十月二十六日(四時半受付)
 開会(五時)

- ① あいさつ
- ② おつとめ「正信偈」
- ③ ご法話
- ④ ビデオ
- ⑤ おとき・懇親演芸会
 送迎バス
 栗尾 4,000 発 和屋 5,000 発

参加費

七〇歳以上(無料)招待)

仏壮仏婦會員(男1500円・女1200円)

◎地区の仏婦評議員を通し二〇日までに
 申し込んで下さい。

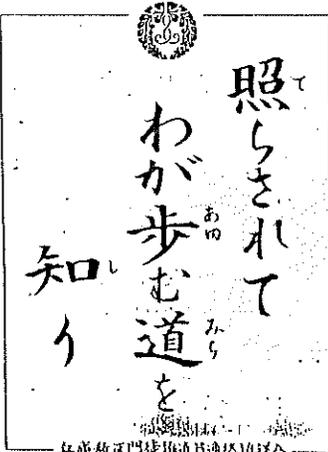
(後日代議員・評議員を通し詳細ご案内いたします)

裕人くん 初参式

宮嶋裕人 ゆうと くん。平成2年8月裕之・くる
 みご夫妻の第一子として誕生。裕という字は
 どんなものととりいれるひろきをあらわした
 文字。赤も黄色の花も青色も白い花もみんな
 如来さまの光りのなかにとりいれてくださる
 お浄土の撰取の風光が思われます。「みほとけ
 の すくいの光り ひろくして 赤色赤光 草も
 木も萌ゆ」 みほとけのひろい光のなかで育
 つほとけの子であってほしいと念じます。と
 同時に差別なく清濁あわせ呑むこころの裕い
 人に育ちますよう願ったことでした。
 お彼岸の中日、祖父母千秋・きくの様ともども
 父母に伴われてお参りました。

十月のこよみ

- 二日 「連研」補講(勝林寺)
- 三日 玉日会報恩講(高福寺)
- 五日 善立寺報恩講
- 六日 善立寺報恩講・高福寺法事
- 八日 近畿仏婦大会(神戸)
- 一日 出石組御同朋結集大会(勝林寺)
- 二日 長専寺報恩講
- 三日 長専寺報恩講・真覚寺報恩講
- 大石正和氏宅法事
- 四日 真覚寺報恩講
- 一日 谷原富雄氏宅法事
- 十六夜△云定例法座 (勝林寺)
- 一九日 西宗寺報恩講
 草津順光寺本堂裏落慶法要
 (一九・二〇・二一日)
- 二〇日 西宗寺報恩講
- 二四日 三明院月忌
- 二六日 別修報恩講
 本覚寺報恩講
- 二七日 本覚寺報恩講・宮嶋幸彦氏宅法事
 坪木隆晴氏宅法事
- 二九日 三明院百ヶ日
- 三二日 比婆組ご巡教記念法座



ギンギンギンギラギラ

ギンギンギラギラ夕陽が沈む：
二歳になったばかりの孫の男の子と、
パスのなかからあの歌を大きな声でうた
って病院についたら、おばあちゃんはず
でにベットのうえに起き上がって、わた
したちを待っていてくれました。
ちょうど半年前の春彼岸のころであり
ました。

ごほうびのおやつをもらって喜ぶ孫を
真ん中にして、三人ベットに腰をかけて

おりしも西の空を真っ赤に染めて太陽
が沈んでまいります。
病室の窓いっぱい、あかねの色に燃
えてさしこんでまいります。

そのとき突然、真ん中に座っていたこ
の男の子が、先のあの「夕陽のうた」を
うたいはじめました。

ギンギン ギラギラ ゆうひがしずむ
ギンギン ギラギラ日が沈む マッカッ
カッカ 空の雲 みんなの顔も まっ
かっか ギンギンギラギラ 陽がしず
む

そうして歌って孫は かたわらにいる
おばあちゃんのほったを小さいその指
でつついて「イッショ イッショ」とい
います。
それからまた、おじいちゃんのほほを
指さして「イッショ イッショ」とい
いました。

しんじつ燃えるような夕陽のひかりの
なかで、今にも死にそうなおばあちゃん
もそれからオロオロしながら子守をして
いるおじいさんも、そして生まれて間も
ないこの孫の顔も、あかね一色に染まっ
て「みんなのお顔もマッカッカッカ」
みんなイッショでした。

孫のうたうたギンギンギラギラのうたの
間じゅうおばあちゃんは、涙いっぱいた
めてお念仏申しておりました。

『観無量寿経』というお経さまのなか

で、苦惱にうちひしがれ救いを求めるイ
ダイケという女性にお釈迦様は、さしづ
め「日想観」ということを教えてくださ
いました。

「西の空に沈む日輪を想うがいい。」
「目を閉じ目を開いて、ここに夕陽
をおもうがいい。 如来さまはここを去
ること遠からず。 いまもあのあかねの光
のなかからあなたを照らしていただく
のだよ」

お彼岸です。

彼の西のひかりの岸から輝き照らして
くださる如来さまの光りのなかで、「
みんないっしょ」 お念仏の友と友とが
出会わせていただきましたよ。



いのち

西池 卓馬
(アメリカ四年生)

このまえ
母のともだちが
赤ちゃんを うんだ
きのうまでいなかかったのに
とつ然 できた命

きょう
おばあちゃんが いってしまっ
た
どこかえいってしまっ
た
きのうまで ここにいたのに
とつ然 きえてしまった命

いのちってなんだろう。

おじいちゃんは いつか死ぬ

生まれたいものは いっか死ぬ
形あるものは いっかなくなると教えてく
れたれど：
いのちって なんだろう。

兵庫教区に 教化センターを

お念仏—如来さまのお呼び声—のなか
の「きょうだい」として、互いにこころ
の腕をくみ励ましあって七百年ものあい
だ守り伝えられてきたこの浄土真宗です。

浄土真宗の門徒たるものは、第一にい
つも正しいおみのりを聞きお念仏に生き
るくらしをしなければなりません。第二
に、「みのりのきょうだい」としていつ
も手を取りあえなくてはなりません。

浄土真宗の基幹運動はその二つのこと
を旨とする運動です。門信徒会運動と同朋
運動がそのなかみです。

ここ二十年来、とくに兵庫教区ではい
ろいろななかたちでこの基幹運動に懸命に
取り組んできました。たとえば「連研」は
全国一の実施率です。組画変更というお
お仕事もしました。仏壮・仏婦の活動も
活発です。

差別なくみんなでおみのりを聞いてい
こうと頑張ってきました。

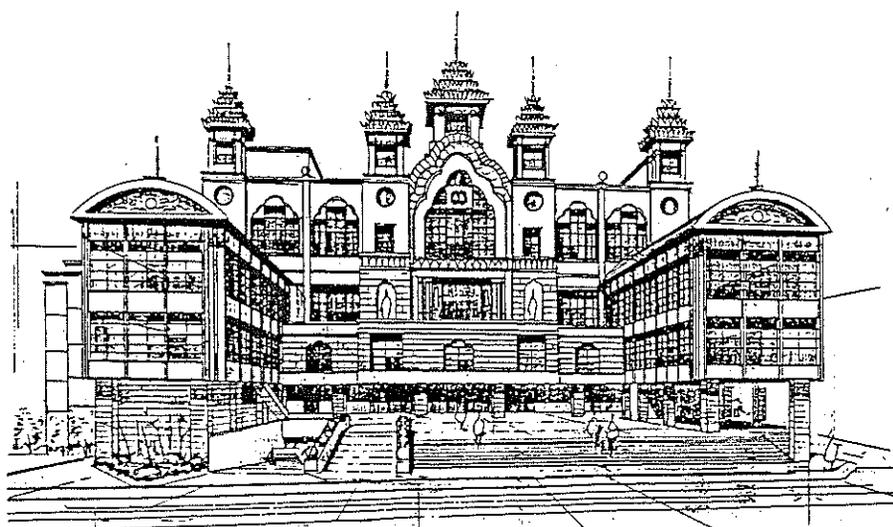
しかしこの運動が進み、隅々まで行き
渡るにつれて、このむずかしさも分かっ
て来ました。

私ひとりのちからではお念仏のよろこ
びを人につたえられせん。
いくら誘っても仏壮組織がもてない事
情のある寺もあります。

ご住職がいらないし法座もないのでおは
なしにも会えない人が最近だんだん増え
ています。

忙しくてご法話もできない状態にある
方も増えています。

この状態がこのままですとしたら
一体浄土真宗のご法義はどうなるのでし
ょうか。



いろいろな状態、いろいろな事情をかか
えたものがスクラムを組む。スクラム(連
帯)を組んでめざす方向へ進んでゆく
このことしか外に乗り切る方法はありません。

組でスクラムを組もう。それが第一で
す。

組の連帯だけでは乗り切れないことも
たくさんあります。

教区で連帯を組もう。その組織と機関
を早急に作ろう。それが兵庫教
区教化センター 構想です。

どこに、どのような、どれだけのもの
を作るかということは、いま門徒総代の
研修会などで研究討議されております。